

昭和 52 年から
40 年近くに亘り、地域で
天神太鼓の演奏活動を行って
いる団体。市内各地で開催されるお
祭り等のイベントにボランティアで出演
されているほか、市立小学校にて太鼓
の打ち方の指導等も行なうなど、天神
太鼓という伝 統芸術文化の継承
・振興に貢献している。



教育文化功労 てんじんだいこ やほ天神太鼓

平成 29 年 3 月 11 日(土)に国立市郷土文化館にて、やほ天神太鼓の定期練習が開催された。老若男女が集う防音室、取材に伺った。

練習内容について教えて下さい。

―(横井代表)準備体操を行った後、基礎練として打ち込み(テンポにあわせて太鼓を規則的に叩く)を 5 分間 3 セット行います。テンポはセットを重ねることに速めて、みっちり体に打ち方を染み付かせます。基礎練習の後は、ミーティングや休憩をはさみつつ、イベント参加予定のない今の時期はチームで決めた 1 曲を丹念に練習します。

―演奏披露等の活動について教えて下さい。

―谷保天満宮の行事(2 月の梅祭り)と 9 月の天満宮まつり)をはじめ、谷保第三公園のどんど焼きや青柳稻荷神社のお祭り、市内の夏祭り、国立まと火等で演奏を行わせてもらっています。演奏活動以外では、国立第一小学校の 4 年生を対象に、伝統芸能体験事業として、毎年 1 月頃に天神太鼓の指導を行っています。

―加入条件等があれば教えてください。

―太鼓が好き、太鼓を叩きたいという気持ちがあれば、老若男女どなたでも参加可能です。募集について大々的な告知等はしていませんが、演奏を見て興味を持った方がいたときは個別にお誘いしています。子どもが太鼓をやってみたくて、引率として付いてきた親御さんが子ども

と一緒に太鼓をはじめ、子どもより真剣になるケースが多いです。

―メンバー構成は時によって異なり、年齢層や技術が定まらないため、その時にしかできない事、今のメンバーだからできることを常に考えて練習しています。

―太鼓という楽器の魅力とは何でしょうか。

―太鼓の音を耳で聞き、体で味わい、振動を感じ、それがリズムになり、曲になることの面白さです。一度打つと、無条件にもっと打ちたくなるのです。太鼓を打つ、という行為に、嫌な要素が一つもないのです。

―アドリブ演奏がしやすいことも狭義の魅力としてあります。私たちはプロ集団ではないので、舞台上でミスをすることもあります。でも太鼓という楽器だから、私たちでもそのミスを工夫して打てば、活かすことができるのです。

―チームにおける今の課題とは何でしょうか。

―チーム全体の技量の向上が課題です。これまでは「太鼓」というキーワードのみでメンバーがなっていた状態で、メンバー個々の練習スタイルや参加状況などについて、会が制限や強制はせずに活動してきました。しかし、現時点の構成メンバーの多くは活動歴の長い者が揃っています。この機会に、プロレベルを目指すとは言わなくても、全体的にレベルアップをする段階に移りたいと思っています。

―そのため、具体的に持ち曲数を増やすことばかりではなく、今ある持ち曲の質を高め、より観客を魅了できるように個々のパフォーマンス力を鍛える事を考えています。みんな楽しんで叩く太鼓から、魅せる太鼓。その方が練習も楽しくなると思います。

―また、「太鼓」という楽器の歴史や知識について、より深く理解する事も必要だと考えています。昔の人の打ち方を研究して披露できるようにするか、太鼓の作り方についてより深く理解するとか、まだまだ工夫や探求できることが沢山あると思っています。

―活動を通じて嬉しい瞬間とはどんな時ですか。

―メンバーの成長を感じた時です。保育園から太鼓を打ち始めた子が、小学生になって間もない頃より一段とたくましく成長した様子を感じて本当に感動しました。

―最後に一言お願いします。

―私にとって一番嫌なことは、このチームがなくなることです。「やほ天神太鼓」というチームが未来永劫続くものになってほしいと強く願い、どんな形でもよいので会に携わって「天神太鼓」の伝統を皆と後世に引き継いでいきたいと思います。

※本記事は、平成 29 年 3 月 11 日に取材した内容について掲載しております。